

令和6年度 北海道小学校長会地区活性化支援事業【実践事例レポート】

- 1 報告地区：日高地区
- 2 事例報告学校名：えりも町立笛舞小学校
- 3 報告者職・氏名：校長 鹿海 圭吾
- 4 キーワード：PTAとの連携・極小規模校・特色ある教育課程・教育活動への地域参画

1 はじめに

地域は、日高東端えりも町の西側に位置し、様似町に隣接し、近浦・笛舞・下笛舞の3集落よりなり、近笛地区とも呼ばれている。

南に豊かな太平洋の漁場が広がる漁業中心の集落である。2月頃からフノリやマツモ採りに始まり、カレイ、タコ、ツブ、夏のコンブ漁、サケなど1年を通した漁業活動が営まれている。大半の家庭は、コンブ漁を主たる収入源としている。地域の高齢化は進んでいるが、漁業に従事する若い後継者がいるため、児童数の維持が図られている。

学校は、地域の中心機関として機能しており、住民は、学校への大きな期待を寄せている。学校行事等には、積極的に協力していただいている。過去に児童の保護者が極端に減少しつつあったことから、小学生をもたない家庭にもPTAの賛助会員として在籍していただき、物心両面にわたって協力を得ている。

保護者の方々も、参観日や学校行事、PTA活動等にも積極的に参加・協力していただいている。

児童は、前は海、後ろに野山が広がる豊かな自然環境と温かい人的環境の中で、明るく伸び伸びと育っている。夏のコンブ漁の時期になると、家族の重要な働き手として期待され、その役割を果たしている。また、学年を超えての児童同士の交流が見られ、大人数で仲良く遊ぶ姿がよく見受けられる。



2 保護者・地域と連携した教育活動

(1) PTAが積極的にかかわる活動

本校のPTAの活動や学校と連携して取り組む活動については、各世帯から一人ずつの協力ではなく、保護者全員が全面的に協力していただける。なかなか無い協力体制と感じているところである。その一部を紹介する。

① 運動会

本校の運動会は、PTA全員がスタッフとして協力しスムーズな運営がなされている。プログラムの中に自治会対抗競技もあり校区内3地区の自治会の方々が積極的に参加している。また、地域の海関係の企業、漁業組合の青年部や女性部等も運営や競技へ参加して下さる。運動会当日は、12世帯の学校にもかかわらず、概算でも200名を超える参観及び競技参加者が訪れている。極小規模校では珍しくないかもしれないが、小学校の運動会は地域の一大イベントとなり地域の方々も楽しみにしている。その思いを受けて、PTAの打合せ会議も1か月前から3回、うち1回は保護者全員が集まっての会議を行うなど保護者の意識は大変高い。

② 冬祭り

1月の後半に行われている。1年間行ってきた総合的な学習の時間の「海に関する学習」を保護者地域の方々に発表した後、PTA、地域の老人クラブの協力で、餅つき、雑煮等の昼食会、親子百人一首大会を行っている。餅つきに使う道具の手入れ、準備、食材の買い出し、当日の子どもたちへの餅つき指導等PTA全員が協力して行っている。

③ その他の活動

- 次のような活動が、PTA主導で行われる。(教職員はお手伝いする程度の取組)
- ・グラウンドシート張り・シート外し

えりもの特徴である強風によって、冬場にグラウンドの土が飛ばされるのを防ぐため防砂シートを単管に縛り付けてグラウンドの土の部分に敷き詰める作業。春にはそれを取り外す作業がある。

・学校敷地周りの防風ネットの補修

強風によって破れた場所などの補修作業。漁師さんたちは網の扱いやロープワーク等に長けているため非常にてきぱきと補修していただける。

・大型水槽の清掃、海産物の入替

海でとれた魚の一部を生きたまま日常的に持ってきていただける。小型のサメなど珍しい海の生き物がいつもいる状態。年に3回海水を抜いての清掃も行っている。



(2) 他地域との交流学习（帯広市立広野小学校との交流学习）

① 概要



6月の後半に、帯広市立広野小学校と交流学习を行う。隔年で行き来する形である。海の漁師町の笛舞小学校と、広大な大地で農作業中心の広野小学校で交流を行い、笛舞小で行う年は地引き網体験で魚を取り、ちゃんちゃん焼きで昼食を食べる。広野小学校で行う時はトラクターに乗ったりする体験を行い、ラムや牛肉でのバーベキューなどで昼食を食べる。

地域の調べ学習の発表をし合い、交流ができる活動をして1日を過ごす。コロナ禍前は1泊2日で行って

いたが、コロナ禍後は1日日程で行っている。特筆したいことは、今年度で54回を迎えており、小学校時代に小学生同士で交流学习を行った児童が保護者となって再会しているのである。お互いの保護者も、続けている交流学习を盛り上げ、楽しみにし、仕事をお休みにしてでも大半が参加している状況である。

② 交流の始まり

54年前、当時の帯広市長が釣りでえりも町に足を運んだ際、たまたま当時の笛舞小学校の教諭と知り合いになった。その際笛舞小学校の教諭が「笛舞の子どもたちは都会の空気を吸う機会が無くてかわいそう。」とお伝えしたところ、同市長が「それなら子どもたちをぜひ帯広に招待しよう。」と約束し、昭和43年に招待していただいたことから始まった。

③ 今後について

保護者だけでなく地域の方々もこれまでの54回の交流学习のどこかで保護者として関わった方々がほとんど。継続には強い思いをもっている。時代も変わり教育課程の中で宿泊も含めての実施が難しくなって来ている。また、どちらの学校も極小規模校となってきた。今後は、地域として青少年育成の観点での実施も模索していく必要が出てきているが、大事にしてきたことを継続していくことができるように知恵をしぼっていくことが必要であると考えている。

3 おわりに

本校は、昨年度から統廃合について町教育委員会と連携して時間をかけて協議してきた。その結果、令和8年度終了時をもって近隣の学校に統合される見通しとなった。運動会などを中心に地域を盛り上げてきた学校、そのことの意味を大事に受け止め、学校を支えてきて来てくれた保護者や地域との関係を大事にしなが、歴史を作ってきた。

学校が存続している残りの年月をいかに過ごしていくのか、そして、学校がなくなったあとも地域が力を合わせ、子どもたちをどう育てていくのか、今後の大きな検討課題である。今後もその意味をしっかりと受け止め地域とともに歩んでいきたい。